

□ トピック □ 怖いダニ媒介感染症

国内で初めて死亡者が確認されたダニ媒介性感染症をご存知でしょうか？

重症熱性血小板減少症候群(Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome, SFTS)という感染症で、症状としては発熱、血便、下痢などが見られます。重症化すると死亡し、日本国内では現在5人死亡が確認されています。SFTSは2009年以降に中国やアメリカで確認され、2011年に初めて原因ウイルスが特定されました。日本国内でも広島県、山口県、愛媛県、宮崎県、長崎県で確認されています。しかし、日本で発見されたウイルスは中国のものとは遺伝子レベルで差異があること、いずれの患者も海外渡航してないこと等から国内で感染したとみられています。馬原アカリ医学研究所の報告によると、ウイルスを持つと疑われているものは「フタトゲチマダニ」と「オウシマダニ」です。

まだ、SFTSに有効な抗ウイルス薬や治療法がありません。このようなことからわかるように予防対策が大切になってきます。マダニ類は山野、公園、草むらなどに生息しています。そういった自然の多い場所になるべく行かないことが大切ですが、もし行く際には、長袖、長ズボンなどのように肌の露出を少なくするようにしてください。マダニ類は他のダニに比べて体長が大きいので、目視でも観察することができます。万が一、マダニ類に咬まれた際には、むやみやたらに引っこ抜いてしまうと、口器が皮膚の中に残ってしまうことがあるので、病院に行き適切な処置をしてもらうことをお勧めします。

上記のようにちょっとしたことから自分自身を危機から守ることができます。ぜひ、他人事としてとらえずに、注意してください。

□ お知らせ □ ダニ調査

屋内での原因が明確でないかゆみを感じたとき、皮膚炎になったときなどに、原因がダニであると決めつけてしまうことがよくあります。しかし、かゆみや皮膚炎はダニだけでなく、ウルシなどの木によるもの(かぶれ)、虫刺されによるもの(蚊、ハチ、アブなど)、アレルギーによるもの、季節変化での乾燥によるものなど様々な原因が考えられます。そのため、弊社で行うダニ調査は、①ヒアリングをする、②吸引掃除機で室内塵を吸引する、③飽和食塩水浮遊法でダニの生存を確認するの順序で行っています。そして、そこからわかった情報から、防除対策、計画・施工を行っていきます。例えば、イエダニ、トリサンダニの場合は、ネズミや鳥、巣などに寄生することから、捕鼠材やベイトボックスでのネズミ調査、営巣がないかの調査、ネズミや鳥の死骸がないかなどの調査を行います。ツメダニ類などの塵性ダニの場合には、発生源となっている場所で適正な薬剤処理を行い、予防措置をアドバイスします。

このように対象害虫により対策が異なってきますので、素早く、確実に被害を抑えたい場合には専門家に頼むことをお勧めします。



イエダニ(*Ornithonyssus bacoti*)

体長: 0.6~1mm前後

体色: 半透明~乳白色

吸血すると赤黒くなる

分布: 日本全国

□ 豆知識 □ ひな祭り

3月3日はひな祭りです。ひな祭りと言えば、女の子の祭りとして親しまれていますが、歴史をさかのぼると意味合いが少し異なる行事であったことがわかります。日本にはもともと「穢れ」という宗教的な概念があり、この穢れを落とすための「禊」というものが、古代より行われてきました。禊とは最初は季節の変わり目にする水浴びと宴で構成された厄払いでした。しかし、平安時代になると、水浴びによって穢れを払うのではなく、紙や植物で作った人形に自分の災厄を托して海や川に流す行事に変わりました。また、その頃、上流の女の子の間では「ひいな遊び」というものが行われていました。「ひいな」とはお人形のことで、現代でいう「ままごと遊び」のようなものです。こうした行事や遊びが、長い年月の間に組み合わせ、江戸時代に現在のようなひな祭りとなりました。

今と昔では、行事としては意味合いが異なりますが、どちらにしても幸せを祈願する意味としては変わってないように感じます。古代から大切にされてきた伝統文化をこれからも守っていききたいですね。

